

## 知事との県民対話集会（坂城町）概要

- ・開催日時 令和5年9月30日（土） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 坂城町役場 講堂
- ・参加者 県民24名、山村坂城町長、阿部知事、尾島長野地域振興局長
- ・テーマ 子育て支援、教育について

### 【参加者】

- ・坂城町子育て支援センターを拠点に、毎月第4木曜日に親子で楽しめる活動を行っている。
- ・ダンスを通して地域の小学生と交流したり、水遊び、クリスマス会など季節に応じた活動を楽しんでいる。

### 【参加者】

- ・幼稚園、保育園の入園前に、短期間でも子育てサークルに参加することで、親同士、子ども同士の輪が入園後もつながっている。よりよい子育て環境づくりを目指している。

### 【知事】

- ・子育てをしている皆さんにとって、もっと暮らしやすい社会になるにはどうしたらよいか、感じていることを教えてほしい。

### 【参加者】

- ・一人目の子どもの出産後に職場復帰したが、帰宅時間が遅くなるなど働きながらの育児は家族の負担も大きく、結局退職した。
- ・退職後、二人目の子どもの出産後に町の各種支援を知った。働いていたときは会社とのつながりだけだったが、支援策を知り、もう一人出産しても大丈夫と思えた。

### 【知事】

- ・少子化や人口減少、子育て支援の問題は、企業の経営者の皆さんと一緒に考えていく課題であると思っている。
- ・男性の育児取得などの子育て支援については、職場の雰囲気や社会の価値観を変えていく必要があると思う。
- ・自主的、主体的な子育てサークルの活動を進めていただくとともに、課題や不満があれば、その声を聞かせてほしい。課題などがあるところに社会をよくする原動力があると思うので、それらに対応することで社会をよくしていくサイクルを回していきたい。

### 【参加者】

- ・小学校のPTA会長をしている。PTA活動として美化活動、資源回収などを行ってきた。歴代のPTA役員でつくる会もあり、現役員からの相談にのってくれる。よい仕組みであると思う。
- ・仕事をしながらPTA役員ができる人は少ないと思う。今までどおりの活動の継続は困難なので、活動内容をコンパクトで効率的なものにしていきたい。

### 【参加者】

- ・中学校のPTA会長をしている。コロナ禍における様々な問題解決の機会として、近隣の大学生や高校生を中心に結成された「灯（ともしび）キャラバン」に中学校も参加し、文化祭でコラボレーション企画として「灯プロジェクト」を実施している。PTAも企画の段階からプロジェクトに参加することで、保護者も学校行事に参加できる貴重な機会であると感じている。
- ・中学校の部活動が地域に移行されることとなり、千曲市とともに「千曲坂城クラブ」として今年度から活動が始まった。休日の活動から順次拡大していき、将来的には完全に地域クラブに移行していくことである。
- ・これまでの部活動という形が大きく変わり、子どもたちも戸惑うこともあるが、一方で、他校生徒との交流が増えることにより、子どもたちにとって新たな可能性が広がるものと期待している。

**【知事】**

- ・私にはPTAの選任に関し権限はないが、県内の様々なところに行くと、PTA会長が男性ばかりなのはなぜかと聞かれることが多い。男性が役員になることが悪いことではないが、著しく男性の比率が高いと固定的な性別役割分担の意識が強いことの表れではないかと言われかねないと感じている。
- ・今は学校の先生に多くのことを求めすぎていると思う。一番に期待することを整理して、他のことは地域で支えていくことが必要ではないか。
- ・その一つが中学校の部活の地域移行であると思うが、それだけを取り出して議論すると、本質的なところを見誤ってしまう可能性がある。県教育委員会には、部活の地域移行に関し県としての考え方の基本方針を出すべきではないかと投げかけており、検討してもらっている。
- ・部活の地域移行は大事だが、どこに住んでいても生徒が望む活動ができるようにしなければならない。
- ・また、中学生だけでなく大人や小学生も含めて皆がスポーツに親しめる環境をつくることを視野に入れることが、部活の地域移行を考える上では必要であると思う。
- ・先生の役割のあり方を考えていく上で、PTAの果たしている役割は大切であると思う。
- ・学校の自治、学校が主体的に考える余地を増やしていく必要があり、PTAの方々にも学校の教育のあり方や地域との関わり方も含めて先生方と議論してもらえるとありがたいと思う。

**【参加者】**

- ・夏休みものづくり教室の開催、さかきモノづくり展への小・中学校、高校生の参画、坂城中学校キャリア教育連携会議への参画など商工会で子どもたちを対象とする活動に取り組んでいる。
- ・「坂城の子は坂城で育てる」をモットーに、子どもたちにモノをつくる楽しみや喜びを体験してもらうことなどにより、次代の地域を牽引する人材として活躍してくれることを期待している。
- ・県の奨学金返還支援制度はよい取組であり、よりよい人材を確保するためにも、安心して働けるためにも必要であると思う。

**【知事】**

- ・子どもたちにいろいろな場面に登場してもらおう商工会の取組は大変ありがたい。県全体としても職業体験やキャリア教育などをもっと充実させていかなければいけないと思う。
- ・坂城高校はICT活用で全国的にも有名になっているが、県立高校をもっと特色あるものにして、例えば、全国から生徒が集まるようになってほしいのではないかと考えている。
- ・これからの教育の方向性のキーワードは、「個別最適な学び」、「探求的な学び」であるが、これらは学校の中だけでなく、地域との関わりの中で行わないと深まらないと思う。そのためには商工会を始め、地域の経済団体の皆さんに積極的に学校教育に協力いただくということは重要であると考えている。
- ・将来的には、学校と地域社会をつなぐコーディネーター的な存在の人たちを充実させていかなければいけないと思っており、また、地域の皆さんも教える側としてもっと学校の中に入って行ってほしいと考えている。

**【参加者】**

- ・保育園の英語教育、小学校のデジタル教育は早すぎるのではないかなと思う。
- ・少子化の原因の一つとして、仕事が忙しすぎるといふこともあるのではないかな。

**【知事】**

- ・人口が増えていた時代には、ものをつくればつくるだけ売れるため、働く時間が長いほど売上げが増えた。そうやって成功してきたためなかなか変えられないが、人口が減少しているときには、時間をかけて稼ぐよりクリエイティブな部分に能力を振り向けるべきである。クリエイティブな部分に能力を振り向けるには、長時間働くのではなく、余白が必要であると思う。
- ・これからは、どのような働き方をするかが働く場を選ぶ際にも厳格に問われる状況になっていくと思われ、経済界の方とも一緒に考えていきたいと思う。

**【山村坂城町長】**

- ・町内保育園・幼稚園の英語教育は、遊びの中で英語に触れる機会を設けている。子どもたちに負担にならず、英語を嫌いにならないよう取り組んでいるところである。
- ・小学校でのデジタル教育は、これからは避けられないことであると思う。目に優しい環境など配慮しながら、子どもたちの負担にならないよう進めたい。